

1 単元 新聞を読もう

2 目標

複数の新聞記事を読み比べることの意味やその効果を知ったり、見出しやリード文から要旨をとらえたりすることができる。

3 情報の交流を行う場面と期待される効果

複数の新聞記事を読み比べたり、同じ新聞記事に対する自分と友達の間での感想や意見を読み比べることで、情報の交流を行い、書き手によって伝えたいことが違ったり、読み手によって感想や意見が違ったりすることを知る。その感想や意見を比べることで、新聞記事に対する気づきを広めたり、深めたりすることができる。

4 実践の様子

本学級には新聞を読む習慣がない児童が多数いる。そのため、題材選びが大切だと考えた。そこで、児童の間で話題になっていた「三浦雄一郎さん」がエベレストへ最高齢で登頂に成功したという記事を題材にすることにした。

記事の視点が違う3紙を選んでワークシートを作成した。児童は、同じことを伝える場合でも、記者によって様々な視点を持ち、記事を書くことを、グループで話し合うことで気付くことができた。【資料①】



資料①

次に、同じ記事を読んでも受け取り方の違いがあることを感じるための準備として、新聞記事を毎日1種類ずつ読み、16種類の新聞記事を読んでいった。新聞記事の内容は、日本の食糧生産に関するものにした。

感想や意見を書かせる際には、自分の感想に当てはまるものに○を付けてから感想を書くようにした。また、自分が気になった部分に赤線を引くことにした。【資料②】

16種類の記事に感想や意見を書いたワークシートをファイルにまとめ、新聞記事ファイルを作成した。そのファイルを学級のグループで読み比べた。【資料③】 この活動には次のような利点があった。

- 1 全員が読んだことがある記事なので、初めて読む記事よりも活動が容易で活発に行うことができる。
- 2 記事の感想や意見に○印を書くことで、自分と同じ意見か違う意見なのかが分かりやすく、比較しやすい。
- 3 気になった部分に赤線を引くことで、同じ意見や感想でも、友達との違いを意識することができる。
- 4 違いを意識することで、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

児童からは、「この子は自分と違う考えを持っている。自分の考えだけが正しいんじゃないんだ」や、「こんな考え方があってびっくりした」などの意見が多数出た。そして、記事に対する気づきを広げ、深めていった。



資料②



資料③

5 成果と課題

- 同じ新聞記事の意見や感想を読み比べることによって、感想や意見の違いが明確になり、記事に対する気づきを広げ、深めることができた。
- 児童同士が感想や意見の違いについて話し合う活動がなかったため、児童によって気づきの広がりや深まりに差が出てしまった。